

令和6年度やさしい未来都市会議



日時：令和6年10月10日（木）

15:00～17:00

場所：東広島市役所本館3階 303会議室

次 第

1 開会 市長挨拶

2 出席者紹介

3 資料説明

4 意見交換

5 閉会

令和6年度やさしい未来都市会議 委員名簿

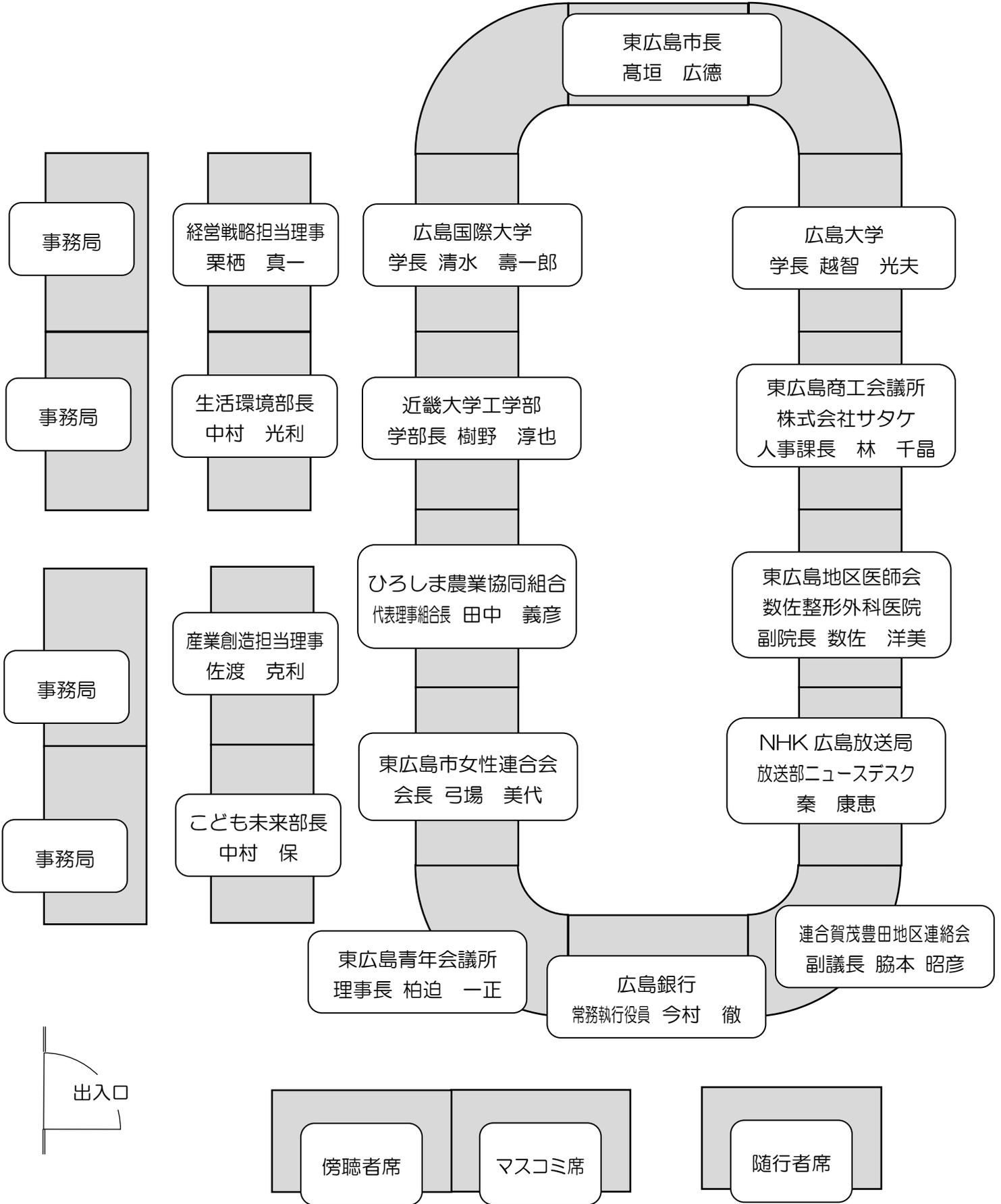
※敬称略

団体等	役職等	委員氏名
広島大学	学長	越智 光夫
近畿大学工学部	学部長	樹野 淳也
広島国際大学	学長	清水 壽一郎
東広島商工会議所	株式会社サタケ 人事部 人事課 課長	林 千晶
東広島地区医師会	数佐整形外科医院 副院長	数佐 洋美
ひろしま農業協同組合	代表理事組合長	田中 義彦
東広島青年会議所	理事長	柏迫 一正
東広島市女性連合会	会長	弓場 美代
連合賀茂豊田地区連絡会	副議長	脇本 昭彦
広島銀行	常務執行役員	今村 徹
NHK広島放送局	放送部ニュースデスク	秦 康恵

やさしい未来都市会議 配席表

※敬称略

出入口



出入口



テーマ：女性活躍推進と男女共同参画

はじめに	2
1. 現状	3
(1) 国での取組み（女性版骨太の方針2024）	
(2) ジェンダーギャップ指数（参考）	
(3) 広島県での取組み	
(4) 本市での取組み	
2. 地方創生の取組みとの関係性	7
(1) 地方創生10年の取組みと今後の推進方向	
(2) 男女の役割分担意識に関する女性の意識	
3. 政策と現実のギャップ	9
4. 論点整理①	10
5. 事例紹介（豊岡市）	11
6. 論点整理②	15

はじめに（テーマ：女性活躍推進と男女共同参画について）



目指す方向性

全ての人々が個性と能力を十分に発揮し、生きがいやWell-beingを感じられ、イノベーションが次々と生まれる多様性（ダイバーシティ）が尊重された状態



課題

多様な主体の活躍の必要性
(子ども、若者、**女性**、外国人、障がい者、高齢者…)



取組みの方向性

女性版骨太の方針

1.- (1) 国での取組み（女性版骨太の方針2024）

女性版骨太の方針2024

女性活躍・男女共同参画の推進のため、「人材の育成」に取り組みます！

『女性版骨太の方針2024の4つの柱』

企業等における女性活躍の
一層の推進



活躍する女性人材と企業等で
取組を推進する
人材の育成

女性の所得向上・経済的自立に
向けた取組の一層の推進



全国各地の女性が経済的に
自立するための力の育成と
これを支える人材の育成

個人の尊厳と安心・安全が
守られる社会の実現



男女共同参画の視点に立った
防災・復興、配偶者暴力や
性犯罪・性暴力の被害者等を
支える人材の育成

女性活躍・男女共同参画の
取組の一層の加速化



あらゆる分野の政策・
方針決定過程に参画する
女性人材の育成

- ・企業における女性の採用、育成、登用の強化
- ・科学技術・学術分野での女性の活躍推進
- ・女性起業家の支援

- ・所得向上、リスキングの推進
- ・仕事と育児・介護の両立支援
- ・仕事と健康課題の両立支援
- ・地域における女性活躍・男女共同参画の推進（アンコンシャス・バイアスの解消）

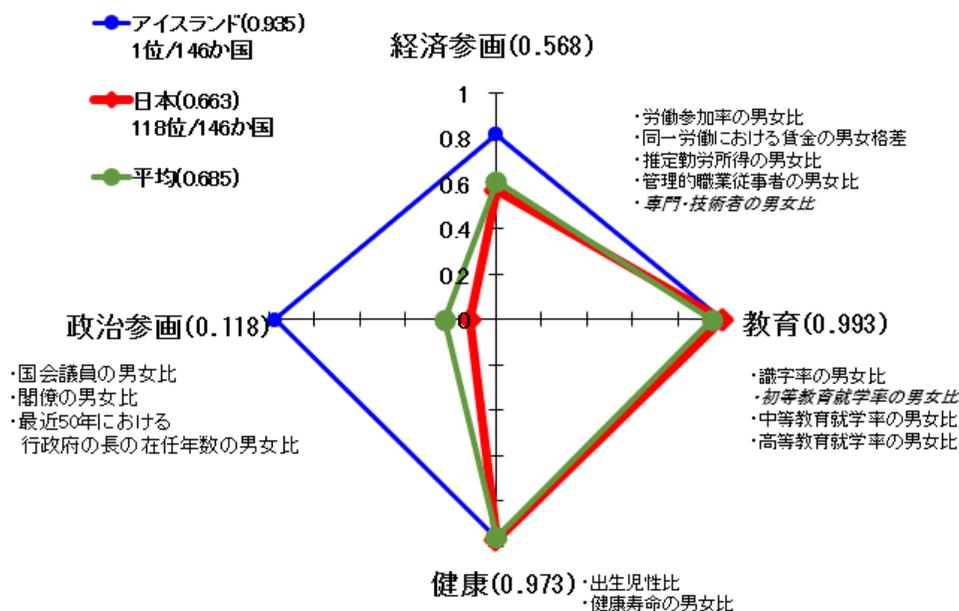
- ・男女共同参画の視点に立った防災・復興の推進
- ・配偶者等からの暴力や性犯罪、性暴力への対策の強化
- ・困難な問題を抱える女性への支援
- ・生涯に渡る健康への支援

- ・男女共同参画の視点に立った政府計画の策定等の推進
- ・政治・行政分野における男女共同参画の推進

1.- (2) ジェンダーギャップ指数 (参考)

ジェンダー・ギャップ指数(GGI) 2024年

- ・スイスの非営利財団「世界経済フォーラム」が公表。男性に対する女性の割合(女性の数値/男性の数値)を示しており、**0が完全不平等、1が完全平等となり、1に近いほど順位が高いとされている。**
- ・**日本は146か国中118位。「教育」と「健康」の値は世界トップクラスだが、「政治」と「経済」の値が低い。**



順位	国名	値
1	アイスランド	0.935
2	フィンランド	0.875
3	ノルウェー	0.875
4	ニュージーランド	0.835
5	スウェーデン	0.816
7	ドイツ	0.810
14	英国	0.789
22	フランス	0.781
36	カナダ	0.761
43	アメリカ	0.747
87	イタリア	0.703
94	韓国	0.696
106	中国	0.684
116	バーレーン	0.666
117	ネパール	0.664
118	日本	0.663
119	コモロ	0.663
120	ブルキナファソ	0.661

- (備考) 1. 世界経済フォーラム「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書(2024)」より作成
 2. 日本の数値がカウントされていない項目はイタリックで記載
 3. 分野別の順位: **経済(120位)**、教育(72位)、健康(58位)、**政治(113位)**

1.- (3) 広島県での取組み

「わたらしい生き方を選択するためのワークショップ事業（R4年度）」



男性の家事・育児編

育児や家事に奮闘中の30代～40代の男性11人（うち進行役2人）が集まり、「育休中はゆっくり休めた？」と言われたり、男性だけが「イクメン」と持ち上げられる状況にモヤモヤするなどの意見交換を行った。



学校生活とジェンダー編

10代～20代の高校生と大学生12人が集まり、学校生活や就活等の中で感じた性別に関する固定観念について、モヤっとした体験などを話し、「女性だからってメイクしないといけないもの？」や「理系に進むのは男子というイメージを持たれる」などの意見が出された。

1.- (4) 本市での取組み

基本計画	キーワード	基本施策	施策の方向
一 人づくり	理解する	(1)人権尊重を踏まえた男女共同参画の意識づくり	①男女共同参画社会の実現に向けた啓発活動の推進 ・雇用等における男女共同参画の推進と仕事と生活の調和 ・人権や性別役割分担意識の解消に向けた啓発の推進
	学ぶ	(2)学びの場における男女共同参画の推進	①男女共同参画の視点に立った教育・生涯学習の推進
二 女性活躍推進計画 環境づくり	共に働く	(1)働く場における女性の活躍推進	①男女平等の雇用機会確保と就労支援 ②女性の人材育成と能力開発 ・働きやすい職場環境づくり ・ITスキル習得支援 ・効率的な働き方 ・育休・パート・アルバイトからのキャリアデザイン
	仕事と生活を両立する	(2)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進	①ワーク・ライフ・バランスの理解促進 ②男性の家事・育児への参画促進 ③仕事と子育て・介護の両立支援
	共に地域で参画する	(3)地域社会活動における男女共同参画の推進	①政策・方針決定過程における女性活躍の推進 ②あらゆる分野における男女共同参画の推進 ・男女共同参画の視点に立った防災対策
三 安心づくり	健やかに生きる	(1)生涯を通じた男女の健康づくり	①生涯にわたる健康づくりへの支援
	暴力をなくす	(2)DV等あらゆる暴力の根絶	①男女間のあらゆる暴力に関する相談等支援 ②各種ハラスメント防止対策の推進
	支え合う	(3)共に支え合うまちづくり	①困難を抱える人への支援 ②国際交流の促進と多文化共生意識の醸成 ③防災における男女共同参画の推進 ・性の多様性に関する理解の促進と啓発の推進

※赤字部分はこれからの新たな施策として検討する事項

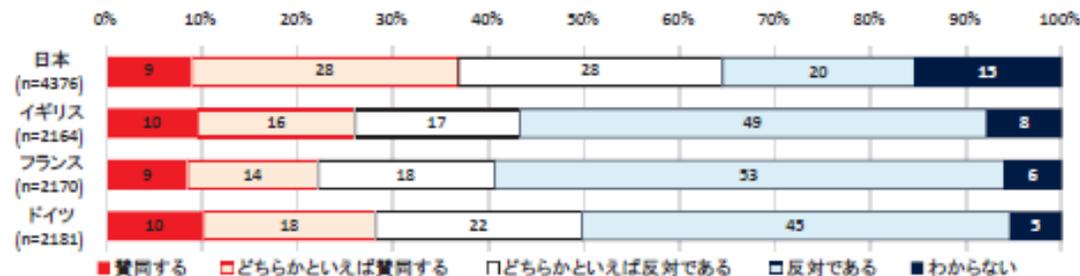
2-（1）.地方創生10年の取組みと今後の推進方向



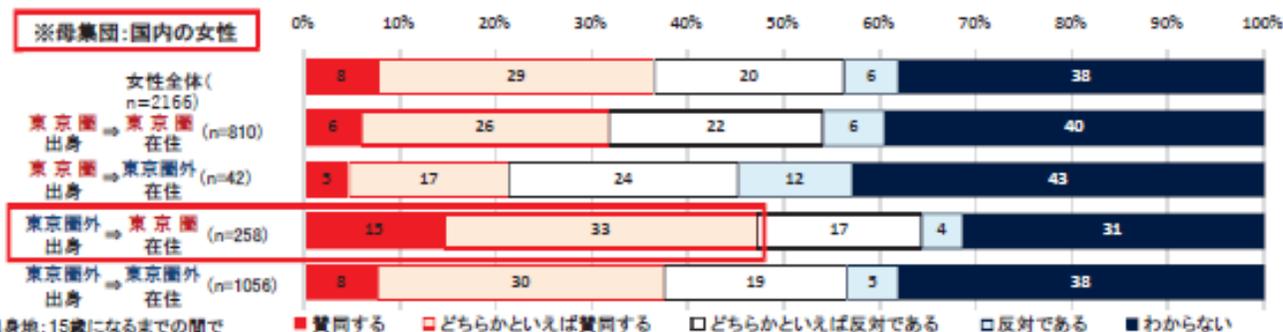
- まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)の施行から10年の節目を迎える。
- 国においては、地方創生の4つの柱（地方に仕事をつくる、人の流れをつくる、結婚・出産・子育ての希望をかなえる、魅力的な地域をつくる）に沿った施策をデジタルも活用しながら展開してきた。
- しかしながら、国全体で見たときに人口減少や東京圏への一極集中などの大きな流れを変えるには至っておらず、地方が厳しい状況にあることを重く受け止める必要がある。
- 東京圏への一極集中の主な要因である女性・若者に着目し、女性・若者の人生設計において地方での生活が選択されるよう、女性・若者・子育て世代にとって魅力ある雇用の創出や、結婚・出産や子育て環境の充実、アンコンシャス・バイアス(性別による無意識の思い込み)の解消等、女性・若者にとって魅力的な働きやすい、暮らしやすい地域づくりに向けた検討を女性・若者の視点から行っていく必要がある。

2.- (2) 男女の役割分担意識に関する女性の意識

Q あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方について賛同されますか。



Q あなたの出身地の人たちは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方について賛同しますか。



※出身地:15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

出典:国土政策局「企業等の東京一極集中に係る基本調査(市民向け国際アンケート)」(2020.11速報)

(備考) 国土交通省「企業等の東京一極集中に関する懇談会とりまとめ」(令和3年1月29日)

- 日本では、欧州諸国に比べて、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という意識が強い。
- 東京圏外出身の女性のうち東京圏へ流入している女性は、他の女性に比べ、「出身地の人たちが夫は外で働き、妻は家庭を守るべきという意識を持っている」と考えている割合が高い。

3. 政策と現実のギャップ

NHK（クローズアップ現代「女性たちが去っていく 地方創生10年・政策と現実のギャップ」）

2024年6月17日（月）放送



番組内容のポイント

- 地方創生における手厚い子育て支援は、若年女性の引き留めにはつながらなかった。
- 地方から首都圏へ転出した当事者である女性の声、意向（本音）は聞かれないことが多い。
 - ・『男性が主要業務を担当、女性が補佐をする体制』
 - ・『地元では、早く結婚して子どもを産むという文化・風潮があるが、自分は仕事を頑張りたい』
 - ・『女性は台所に近い席、男性は座りっぱなし』
- 女性がもの申しにくい雰囲気特に若い女性にとって非常に重苦しく感じられるのではないかと。行政や様々な企業、団体も含めて、広域的に取り組んでいく必要がある。
- 男性、女性という役割分担や意識ではなく、各々の能力、意欲、希望が生かされる地域づくりを職場や地域、教育分野でもやっていくことが大事。

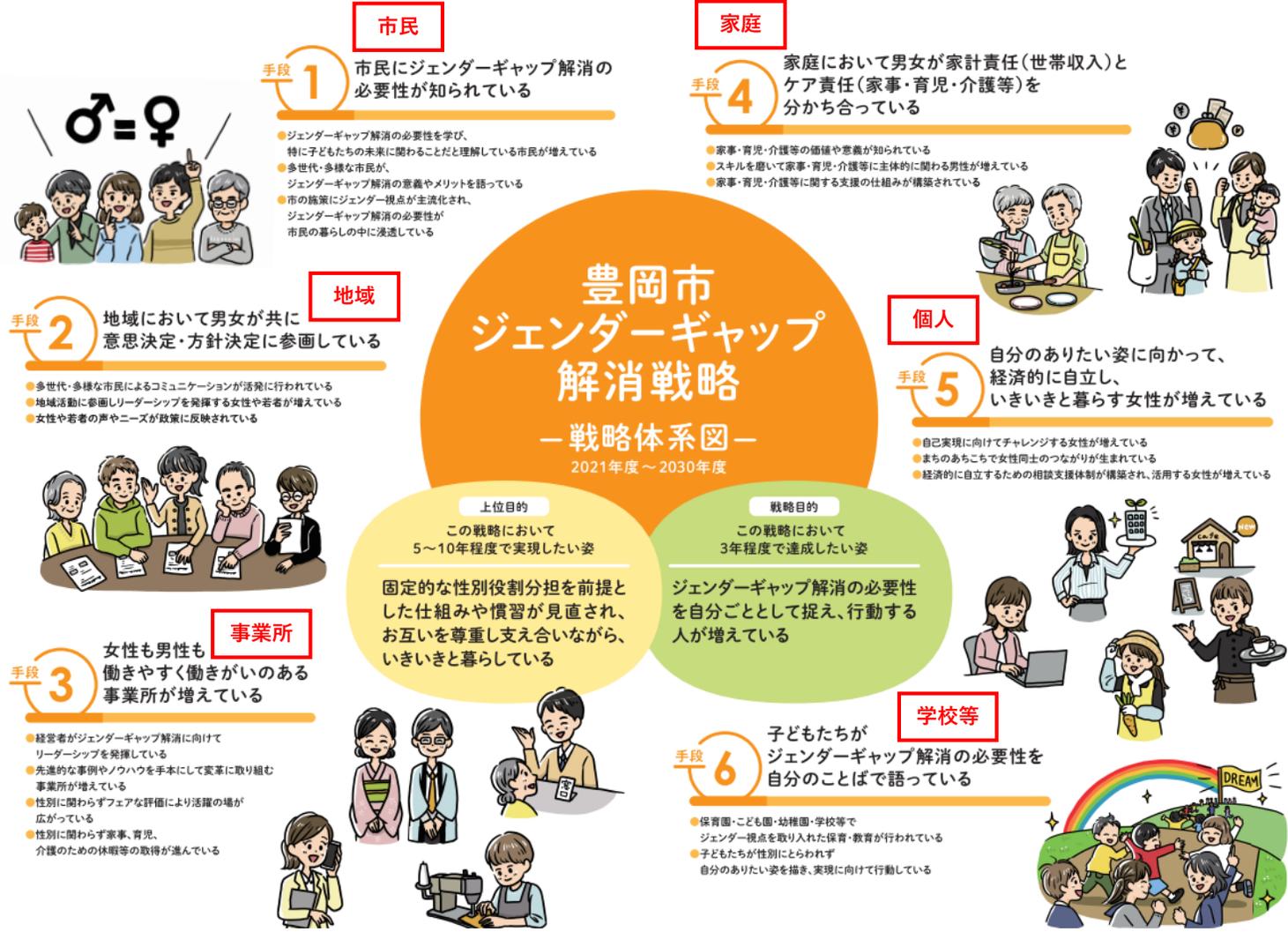
4. 論点整理①



- アンコンシャス・バイアスの現状について

- 多様な働き方などについて

5.事例紹介（豊岡市）



5.事例紹介（豊岡市）



「地域」におけるジェンダーギャップ解消の取組み

豊岡市区長連合会研修(円卓意見交換)



小学校区単位にある地域コミュニティ組織29地区の会長・役員・地域マネージャーや行政区(自治会)359区の区長等役員、教員、保育士、保育教諭を対象に、無意識の偏見や思い込みに気づくことから意識や行動の変革を促すための研修・ワークショップを開催した。

女性によるカフェ(夜×寄る)



地域コミュニティ組織で、女性によるカフェ(夜×寄る)を開催した。ジェンダーチェックシートを活用し、グループ内で暮らしの中のジェンダーに関するもやもやの共有や、ジェンダーギャップに関する理解を深め、これから取り組みたいことなどについて意見交換した。

5. 事例紹介（豊岡市）

「事業所」におけるジェンダーギャップ解消の取組み

豊岡市ワークイノベーション推進会議



働きやすく、働きがいのある職場への変革を進めるため、2018年度に豊岡市内16事業所の参加を得て「豊岡市ワークイノベーション推進会議」を設立した。

参加事業所数は、2024年7月8日現在で115事業所となった。

～推進会議の事業～

- ・女性が働きたい仕事・職場への変革に関する課題の共有
 - ・課題の解決に向けた、事業所の取組みの検討および共有
 - ・課題の解決に有効と考えられる取組みのうち、各事業所単独では取り組むことが困難なものの検討
 - ・取組みの成果の共有と更なる改善策の検討
- ※ 事業所が自ら検討し、事業実施する。

2024年7月8日総会時の様子

講演会→



←ワークショップ



明日からできることの発表→



5. 事例紹介（豊岡市）

リーダーシップを発揮する女性の育成

豊岡みらいチャレンジ塾



政治、経済、地域などの各分野で活躍する女性を育成するため、女性のための人材育成プログラム「豊岡みらいチャレンジ塾」を2022年度から実施している。

受講者同士のネットワーク構築が行われ、学び合い、異業種交流などが生まれている。

2024年7月6日 豊岡みらいチャレンジ塾2024
第1回キックオフセミナーの様子



←スペシャル対談

交流会→



4. 論点整理②



- 今後、市が取り組むべき施策について